

バーベキューや遠足などで地域との交流活発

土地活用のひとつとして注目が集まる高齢者向け住宅。その中のひとつであるグループホームは、認知症の高齢者を対象とした介護付き住宅である。今回、グループホームを運営する事業主（神奈川県横浜市）を取り上げた。

# 高齢者 関連ビジネスを 追う

金進う

んがいで名前  
をほなちゃんと  
言いますぐ、症  
状が進み精神因

状が進み精神病院に入りかけたことがあります。なんとかつたんです。なんとか、このはなちゃんを病院に入れずに受け入れる施設はいいかと探しましたが事なかなか見つからない。当時はまだグループホーム自体が今ほどなかったんですね。それならば自分で建てようと自宅を改裝し、1棟目のグループホームを立ち上げたのがきっかけです。はなちゃんに認知症のおばあちゃんへヘルパーとして働いており、一人住まいのお年寄りの在宅介護などをを行っていました。その中の一人に認知症のおばあちゃんへ



▲建設がすすむ3棟目のグループホーム「みのり  
丸ちゃん山ちゃん」



大信産業  
(神奈川県横浜市)  
取締役 田代若子

回はそういういたチヤンスがなかつたので、自分たちで建てることから行いました。3棟目は6月オーブンですが、完成前の今か田代氏 バーベキュー大の家族からの「ニミで利用者は増えており、早期に満床になりそうです。——今や、「みのり」は地域で必要とされる施設になっています。

田代氏 隣地された予算で、どう間は立ち上かいすから、なるべく安く抑える方法を模索していました。1階を、デイサービスや訪問介護の拠点とした。地盤の緩いエリアということもあり、杭をたくさん打たねばならなかつたんです。でもそりだき、設計にも満足して

醍醐味のひとつではな  
かと思います。

ムになつたのは前の建物を解体する時の音だけ

——今は、一番最初の入居者になつてくれました。——今回、新たに3棟目のグループホームを建設されています。

田代氏　スタッフが育つてきたこととグループホームへの入居を希望される方が増えていること、そして横浜市で新設の粹が出たことなど良いタイミングが重なり、3棟目の開所を決めました。

土地から購入された

専念したいと思ひています。建物は地主さんに建て頂き、それを借り上げ運営する方法がベストだと思ひます。ただ、今

や、認知症の方が認知症の方を看ているケースなど、大変なご家族はたくさんいらっしゃいます。すでに入居されている方たり、そのお兄ちゃんお姉ちゃんの中学生が見学に来たりと、地元との交流も増えていきます。こういった地域貢献も事業の

い適言性も必要。いろいろ見て回った結果、スチールパネルが一番良いと判断し、採用しました。工事で近隣からのクレームで、またまた足りていないのが現状。われわれ運営者が側の声が、地主さんに困ることを期待していま